

授業紹介～生活支援技術～

6月29日の生活支援技術の授業で、特殊機械浴槽の入浴介助の演習をしました。7人で、ローテーションをしながら行いました。介助者は、利用者の希望をくみ取って、髪を乾かしたりメイクをしたりします。実際に、私が利用者の役割の時は、介助者にメイクしてもらいました。

人に洗ってもらったり、髪を乾かしてもらう経験もなかったので**利用者視点**に立てるいい経験になりました。経験してみて、やっぱり**コミュニケーション**が大事だと思いました。**利用者の希望**をくみ取るためには、話しかけたり、触れたりしていかなければなりません。

入浴の意義

体を清潔に保つこと。新陳代謝を促進させて健康的な身体を維持し、特定の疾患を持つ方にとっては症状を悪化させないように抑止するなどの効果がある。それ以外の目的としては、褥瘡がある方にとっては血行が促進されることによる改善の期待がある。関節の可動域が制限される拘縮の方は、お湯の中でマッサージをすることで可動域の拡大が期待でき、筋肉の拘縮が緩み改善が見込まれる。これらの疾患を持たない方にとっても、ほどよい疲労感と安心感で安眠するための目的を持っていたりする。

特殊機械浴槽とは！

機械浴とは、体の不自由な利用者の入浴をサポートする特別な装置を使った入浴方法です。利用者の身体の状態によって立つのが難しい方や寝たきりの方でも浴槽に浸かれます。機械浴の浴槽には3つのタイプがあります。

1:仰臥位入浴(ストレッチャー入浴)

ストレッチャーで寝た状態のまま入れる浴槽です。ストレッチャーをスライドさせながら、浴槽と合体させ、お湯やストレッチャーの高さを調節します。寝たきりの方や座位を保つのが難しい方もストレッチャー上で体を洗ってから、浴槽で体を温めることが可能です。

2:座位入浴(チェアー入浴)

車いすに乗った状態のまま入浴できる浴槽です。横から開閉可能な浴槽のため、車いすのまま体を温められます。

3:リフト浴

リフトなどのサポート装置がついてる浴槽です。椅子をそのまま持ち上げたり、ネットとベルトで利用者を持ち上げたりして、座位で浴槽に浸かれます。

機械浴のメリット

機械浴によって無理に立ったり、浴槽を跨いだりする動作が不要になるため、利用者が転倒するリスクが低くなります。また、移乗や介助時における介護者の腰の負担軽減にもつながります。